

猛禽類のいま

ツミの受難

マンションに囲まれた公園の中心部の高さ7m程のケヤキの横枝にツミの巣があって、雌のツミがそこに座っているのに6月6日に気付きました。その公園はいつも賑やかに子供達が遊んでいます。〔写真1・ツミの雌〕



写真1 ツミの雌

子供がいたずらしないか心配だったのですが、ツミは毎日巣に座っていて、東側の棟の高い階の解放廊下の金属の手すりにツミの雄が止まっていたことがあり、南側の棟では金属の手すりですぐ雄と雌が並んで餌のやり取りをしているのが見られました。

そして、ついに7月9日、ツミの雛を確認しました。雛は真っ白い羽毛に覆われていて、雌が餌を千切って一羽(だけでした)の雛に与えながら自分も少し食べる姿はとても愛情を感じました。でも12日の夜遅く帰宅すると妻が「巣に何もいないよ」。

実は上部階の解放廊下の手すりに猛禽類が野鳥を襲って食べたカスや血が付いていて、清掃員に片付けて貰っているが、朝、学校に行くとき、子供たちがそれを見て怖がっている、何とかしてほしいという話が出ていたようで、ツミがよくとまる階の手すりに糸が張られていました。公園に巣があるので区役所の人に相談して見て貰ったが、巣の駆除はできないと言われたそうです。朝、ドアを開けたら血や鳩の頭などが玄関前にあったら子供は怖がるでしょうねえ。仕方がない話ですけど、悲しいです。

雨が続き、こういうことがあると雛は餌を満足に食べられずに餓死したか、カラスに襲われたのでしょうか。せめて私の家のドアの前がツミ夫婦の調理場になってたら良かったのに…。



写真2 丸見えのツミの巣

研究部あてに、会員から上記のレポートが送られてきました。江戸川区内のマンションに囲まれた小さな公園でのツミの繁殖記録の顛末です。研究部に6月上旬に営巣の第一報が寄せられ、6月中旬に担当者として現地を訪ねました。ケヤキの木の横枝に造られた巣はすぐ見つかりました〔写真2〕。小ぶりの巣は地面から丸見えで、双眼鏡で覗くと巣から飛び出た尾が確認できました。その後も観察日記が寄せられ、私も現地に足を運びました。子供たちの歓声が響きわたって、住民の方が夏祭りの準備をする中で、オナガの群れが大きな声で鳴きながら飛びまわっていました。「ツミの近くにオナガが営巣する」

という関係を垣間見ることができました。

観察者をお願いした日記は何通も寄せられました。「雄も抱卵していることを確認した」、「ヒナが孵った」などの記録のほかに、「子供たちのいたずらが心配だ」、「夏まつりで営巣している枝にロープが張られそうだ」などの気苦労も記されていました。

人の生活圏内に飛び込んで“私の子育てぶり、かわいいでしょ!”とアピールとして、人に見守られながら繁殖を成功させる繁殖法を“ツバメ型繁殖”といいますが、生餌を主食とする猛禽類のツミでは、その手は通用しなかったようです。人間最優先の都市に進出してきたツミは、街のどんなところを利用しているのか興味あるところです。
(研究部・川内)